

| | | | | | |
|--------|--------|---|---------|------|-----|
| 科目名 | 言語の科学A | 科目コード | 1134 | 単位数 | 2 |
| 担当者名 | 原子 智樹 | 開講セメスター | 第1セメスター | 開講年次 | 1年次 |
| 授業の方法 | 講義 | 到達目標 | B | 実務経験 | 無 |
| ナンバリング | BLI103 | DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照 | | | |

● 授業のねらい

「言語の科学B」と合わせ通年使用するテキストT1に沿い、世界地図と言語地図とを重ねて見てみるなど、人間とは切り離せない言語の側から世界を学びます。また、音韻論・形態論・統語論・談話分析のそれぞれから、音声、形態素、語、句、文、そして談話という言語単位を例を示して概説します。

● 到達目標

英語・日本語を中心に言語の構造や人間と言語との関係の基本的理解ができるようになります。

● 授業内容

- 1週目 「言語の科学A」概要説明 ・世界地図[1]（北半球）
- 2週目 言語の起源 言語の系統[1]（言語系統表a） ・世界地図[2]（南半球）
- 3週目 言語の系統[2]（言語系統表b） ・言語地図[1]（言語の境界a）
- 4週目 言語の系統[3]（言語系統表c） 世界の言語[1]（各語族） ・言語地図[2]（言語の境界b）
- 5週目 言語の系統[4]（言語系統表d） 世界の言語[2]（言語間の比較） ・言語地図[3]（言語の境界c）
 / テスト[i]（4週～5週のいずれかに開始）
- 6週目 発音記号の役割[1]（言語の音声）
- 7週目 発音記号の役割[2]（発音記号表）
- 8週目 言語の構造[1]（音韻論）
 / テスト[ii]（7週～8週のいずれかに開始）
- 9週目 言語の構造[2]（形態論）
- 10週目 言語の構造[3]（統語論）
- 11週目 発話の意味[1]（語用論a）
 / テスト[iii]（10週～11週のいずれかに開始）
- 12週目 発話の意味[2]（語用論b）
- 13週目 言語の習得[1]（言語習得の過程）
- 14週目 言語の習得[2]（母語）
 / テスト[iv]（14週～15週のいずれかに開始）
- 15週目 言語の習得[3]（外国語）
 / 再試を行うことがあります
- 16週目 16週目の開講は任意とします / 再試を行うことがあります / これまでの内容についてのフィードバックを実施することがあります。但し止むやむを得ず15週目までの授業内容を実施出来なかった場合は、補講授業を行います

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

進度に合わせテキストT1を予習、また各自で適宜に復習、併せて週30分～60分程度を要するでしょう。

必要に応じ、授業時間以外でも情報調査・収集を学内アクセスポイント（整備予定）等を活用して、積極的にアクティブ・ラーニングに取り組みましょう。

● 成績評価の方法・基準

- 1 LMS上で小テスト及び小レポート数回 15%
 - 2 テスト4回 85%
- 1も2もLMS上で実施予定

● 履修上の留意点

内容・予定の微調整は担当者の判断に委ねられます。

LMSと大学アカウントGmailとを主に使用する予定です。連絡事項はLMSの 掲示板 機能を多用します。また研究室扉横に掲示することもあります。LMSの巡回と、大学アカウントのGmail確認とは、毎日のようにしてください。授業の資料類はLMSに掲示するので学内アクセスポイント（整備予定）等を用いて各自アクセスし、予復習を行ってください。

全回出席が望ましいですが、欠席が3分の1を超えた場合は単位認定はできなくなります。出席が3分の2に満たない場合はやむを得ない特別な事情を証する書類のコピーとともに欠席届を提出してみてください。

講義・授業への遅刻はやむを得ない特別な事情がない限り禁止です。

● 課題に対するフィードバックの方法

各回の試験の内容や付随する事柄について、簡潔に伝えてフィードバックする予定です。

● テキスト

- T1 『入門 ことばの科学』 大修館書店 ￥2,000 + 税（「言語の科学B」も同じ）
- T2 [配付資料]、及び [その他 LMSのアップロード資料]

● 参考書

- R1 『世界言語百科』
 - R2 『言語世界地図』
 - R3 『世界紛争地図』
 - R4 『英語再習法』（共同文化社）（「異文化と言語A」で使用。）
- R1からR3は本学図書館開架所蔵
他に適宜紹介します。

